地域通貨を使った手間替えの仕組みづくり

～十年後の出羽づくりに向けて～

邑南町出羽公民館

1　出羽公民館の概要

出羽公民館は邑南町のほぼ中央に位置しており、旧瑞穂町出羽地域をエリアとしている。12 の集落(421 世帯 936 人)から構成されるこの地域は、平成 16 年の町村合併をきっかけに 12 集落すべてをまとめて出羽自治会が設立された。1 公民館 1 自治会ということで、自治会活動と公民館活動の連携がより強く求められるようになっている。

このような状況の中、平成 20 年度に出羽自治会とともに地区内全戸を対象に地域の課題についてアンケートを実施した。過疎・少子高齢化による不安や地域コミュニティの弱体化など多くの意見が寄せられたが、これらの課題について様々な団体やグループの方と検討を行い、20 年後の出羽を計画する「出羽夢プラン」が出来上がった。この夢プランの実現に向けては、地域のみんなが「お互いさまの気持ち」で役割分担し、集落や世代を越えて支えあう仕組みづくりが重要だという答えにたどり着いた。現在この夢プランの実現に向けて、自治会・公民館がそれぞれの役割を担うよう活動を進めているところである。

2　事業の概要

（1）事業のねらい

昔は冠婚葬祭や労働などにおいて、労力を貸し合い共に助け合う「手間替え」の仕組みがあり、この仕組みにより農村地域の活動は維持されてきたが、機械化や生活の都市化によりその必要性は薄れ、さらに過疎化・高齢化により昔ながらの手間替えの仕組みは衰退しつつある。

夢プランを実践する上で、忘れられようとしている「お互いさま」の精神を現代に活かし、「講中」や「集落」といった小さな枠組みでなく、出羽地域という大きな枠組みで「新しい手間替えの仕組み」により地域を結び直していく。地元商店の活性化させる「地域通貨」と、失われつつあるお互いさまの気持ちを構築する「人材バンク」を絡めて実践を行い、「新しい手間替えの仕組み」をつくるとともに、その仕組みが継続的に取り組まれるよう人材育成に取り組むことで、十年後には出羽地域の住民全員が「いい町だね」と言える地域づくりを目指す。

（2）具体的な取組

ア　地域通貨の運営支援

(ｱ) 地域通貨の発行

地元商店の活性化とコミュニティの再生に向けて地域通貨の発行を行った。この地域通貨は、「カッパ券」と呼んでおり、住民同士のお互いの善意

のお礼や助け合いへの利用（レート:10 分＝100 ｶｯﾊﾟを目安に当事者同士で決定）と、出羽地域の商店での商品購入で利用（レート：１円＝１ｶｯﾊﾟ）できるものとして今年度は実験的に実施した。

カッパ券

●発行総額：808, 300 ｶｯﾊﾟ（808, 300 円相当）
［内訳］

人材バンク関連	324, 500 ｶｯﾊﾟ
公民館その他行事	5, 000 ｶｯﾊﾟ
個人･団での購入	477, 800 ｶｯﾊﾟ

（ｲ）地域通貨の利用に向けた啓発

住民の方へ地域通貨の使い方などについて理解してもらうため、地域通貨の取扱説明書を作成して各戸へ配布を行った。また公民館まつりや自治会主催の運動会、地区社協主催の敬老会などの多くの住民が集まるイベント等の機会を利用して、地域通貨の使用方法などについて説明を行った。

取扱説明書

イ　人材バンクの運営支援

（ｱ）人材バンクの設置

出羽自治会を事務局として人材バンクの立ち上げを行い、コーディネーターを１名置いて人材バンクの管理を行ってもらった。人材の募集については、自治会から各集落を経由し、出来るだけ多くの方に人材バンクに登録をしてもらえるよう募集をしたところ　名の応募があった。

作業への人材手配に関しては、コーディネーターから登録者へ連絡をとり調整を行うこととしているが、携帯電話のメールなどを積極的に利用して作業日の連絡や調整を行った。作業参加者への労賃については、出羽自治会が発行している地域通貨により支払いを行うこととしている。

（ｲ）農作業での仕組みづくり

耕作放棄地対策も含め農地の保全に向けて、自治会産業部を中心に農地の利活用に向けた取組を進めている中へ、人材バンクを活用して農作業を行う仕組みの実践を行った。

個人が管理できなくなった農地など約２ha を自治会が利用し、飼料稲や大豆・そばの栽培に取り組み、耕作や草刈りなどの管理については人材バンクを利用して作業を行った。

作業は５月～11 月で行われ、参加延べ人数は 49 人、地域通貨支払額は 212, 000 ｶｯﾊﾟとなっている。

人材バンクからの派遣による草刈･耕起作業

(ｳ) 除雪作業での仕組みづくり

積雪の多いこの地域では、除雪作業はかなりの重労働であり、特に高齢者世帯ではかなりの負担となっている。この除雪作業について、自治会生活部が中心となって冬期間の高齢者世帯の生活の確保のため、自治会で管理している４台の除雪機と人材バンクを利用し作業を行う仕組みづくりを検討した。

検討会には、自治会生活部を中心に出羽地域の民生児童委員、除雪機の管理者が出席し、高齢者世帯への除雪作業の取り決めをなどについて検討を行った。

高齢者世帯への除雪作業

(ｴ) 空き家対策での仕組みづくり

通学路やバス路線に面している空き家の危険家屋を、自治会では定住促進として利活用することを検討しており、今年度１件の危険家屋の解体を行い、その跡地を定住対策に利用するようモデルとして実施した。その解体作業については人材バンクを利用することとし、手始めとして雪ズリによる瓦の落下事故を防ぐため、瓦の撤去や家財の運び出しを中心に作業を行った。

危険家屋の解体作業

3　事業の成果と課題

（1）地域通貨の成果と課題

- 地域通貨を地元の商店で利用できることとしたことにより、発行した地域通貨（808,300 円相当分）は地域内での循環と消費につながり、地域への還元に対する気持ちが高まった。
- 発行当初は利用しにくいといった意見もあったが、発行額が多くなるにつれて、現金で受け取るより地域通貨で受け取る方が地域に貢献していると感じることができるといった意見も聞けるようになった。
- 地域通貨に対しては賛否様々な意見が聞かれたが、この取組を通して地域の活性化などについて意見が交わされるきっかけづくりとなった。
- 地元商店のうち９割以上の店舗に協力店となってもらうことができたが、地域通貨の取組への理解度が店舗によって差があるように感じられた。
- 実際に地域通貨を受け取る人が少数で固定化されている傾向があるので、人材バンクの幅広い利用と併せ、多くの住民へ手渡されるような機会を増やす必要がある。

（2）人材バンクの成果と課題

- 農作業での取組において、非農家の人材バンク登録者の参加を積極的に進めることができ、農家への負担軽減に向けた人材バンク利用への可能性を見出せた。
- 今年度は積雪も少なく除雪作業での利用は少なかったが、高齢者世帯への除雪作業の取り決めが検討されたことで、自治会で費用負担し除雪を行う基準とその依頼へ向けた流れが明確となった。
- 危険家屋の解体作業を人材バンクにより行うことで、地域住民が危険家屋への対策の必要性を感じることができた。
- 人材バンクへの登録者は男性の若年層が多くの割合を占めているため、より多くの住民が関われるよう作業内容の拡充に向けて検討する必要がある。

4　今後の方向性

現段階では人材バンクを利用しての作業は限られており、農作業などある程度元気な住民の方しか参加できない状況であるが、今後は女性や高齢者など幅広い住民が参加でき、地域内でそれぞれの役割を担って活動ができるような仕組みづくりに向けて検討を進めていきたい。

また地域通貨に関しては課題の把握のため、通貨の利用者や商店に対してアンケートを実施するなどして課題解決に向けた方向性の確認と、地域通貨に対する地域住民の理解向上のため学習会などの機会を提供していきたい。

地域にある問題を住民全員の「お互いさまの気持ち」で解決していけるような仕組みづくりに向け、公民館として果たさなければならない役割をよく認識して今後の活動を進めていきたい。